



小城市立歴史資料館 * 中林梧竹記念館だより

佐賀大学交流事業特別展の開場式が行われました

10月23日(金)、小城市立歴史資料館において児玉^{こだま}ひろあき 浩明佐賀大学学長、江里口市長、中島市議会議長、大野教育長出席で交流事業特別展のテープカットが行われました。

佐賀大学所蔵『小城鍋島文庫』は、歴代小城藩主が作成・収集した文芸資料など、バラエティに富んだ内容を有しています。この事業は佐賀大学と小城市で資料を活用した調査を行い研究の成果を交流展および刊行物の発行によって市民に紹介する事業です。



▲テープカットセレモニー

令和2年度佐賀大学・小城市交流事業特別展 関連テーマ展示「肥前石工の世界」を開催

戦国時代から江戸時代に活躍した砥川・西川・右原の3つの石工集団について紹介します。

- ◆期間 ~12月13日(日)
- ◆場所 歴史資料館 常設展示室内
- ◆観覧料 無料



おぎの歴史探検隊

銀座の書聖・中林梧竹〈その2〉

清国から帰った58歳の梧竹は、副島種臣や波多野敬直、松田正久と

いった同郷の政治家の世話で、銀座の「伊勢幸」に寄寓し(一時的に身を寄せ)ます。ここは青木だけが開いた婦人洋服店で、鹿鳴館の舞踏会用のドレスなどを作っていました。彼女は2人の娘とおよそ30年間、孤独な梧竹の面倒を見続けます。大芸術家の陰に、隠れた恩人ありですね。

銀座の目抜き通りの伊勢幸を拠点に、梧竹の活躍が始まります。本場仕込みの書の見事さに名声は大いに高まり、ついた呼び名も「銀座の書聖」。全国から次々と注文が舞い込み、今でも各地に梧竹が揮毫した(筆をふるって書いた)書や碑文・扁額などが数多く残っています。また65歳のときには、王羲之の「十七帖」の臨書を明治天皇に献上しました。

梧竹ファンの一人で有名なのが、歌人の斎藤茂吉。全集の中には、梧竹を詠んだ歌がいくつも収められています。梧竹が生涯にわたって書の探求を続け、新境地を開いた姿勢を、茂吉は深く尊敬していたようです。(続) 小城郷土史研究会/著



▲現在の伊勢幸跡

❖開館時間 9時~17時 ❖休館日 毎週月曜日・祝日 小城市ホームページから 梧竹・歴史資料館・文化財 検索
【問合せ・申込み】歴史資料館 文化課(桜城館2階) 担当 下川・永田 ☎71・1132